

酉年の新年

会長 飯田 精鷹

皆様 明けましておめでとうござ
います。良い年をお迎えの事と存じ
ます。

神鶏鼓翼

翠芳

神鶏翼を鼓して一聲長し 研海新た
に浮ぶ太古の光。願わくば靈峰千
載の雪を灑いで 書せんと欲す警世

岳精流日本吟院

ちよあ

第 2 2 号

平成 1 7 年 1 月

千 代 田 岳 精 会 弘 報

平成十七年度岳精流指標

自分に厳しく

の大文章。

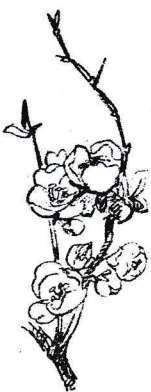
掲げたこの吟は、松本翠芳作で、
小生が新年の三菱展覧会に出品のも
のです。世は乱れて麻の如く、老生
も警世の言葉を吟じ、書を揮いた
ような心境です。地震や災害に苛ま
れた昨年、助合い義援の運動は暖か
いものを感じていますが、相も変わ
らぬ俗悪のマスコミ報道と、人の道
を逸した犯罪が多発しています。
眼を中東に転ずれば、イラクの炎
は消えず、人道復興支援もままなら
ない。かかる折、幼少年の情操教育
の不足を嘆き、詩吟を教えてその未
来への希望を持たせ、自らも生き甲
斐としてゐる老婦人の話が、旧臘読
売新聞に載っていました。近所の子
等を集め、学んだ漢詩・吟を教え始
めた。集い来る子等は喜んでやっ
て来、大きな声で詩を歌う。門前の小
僧、習わぬ経を読むの諺、やっ
るものは真善美の美しい詩なのであ
る。子等は家庭でも学校でも、親に
孝も、友愛も、信義誠実も、教わっ
ていないに近い。海綿に水が沁み込
む如く覚えてゆく、理解出来ない部
分があつても、成人の暁に教訓とし
て、脳裡に残り役に立つ。お返しの人
生、正に人間の尊い勤めなのである。

「廿周年の前奏」

来年廿周年が来る。千代田は岳精
流中新しい会なのであるが、一期生

は皆伝に到達した。いよいよ円熟期
に入る。本部指導員を拜命する者も
出て来ている。その人達のモットー
は、魂の勉強、心の指導者である。
宗家の言われるように、吟が好き、
吟が支え、最早吟が生活の一部とな
っている。それは、恩師に感謝、同
僚に感謝の毎日である。この廿周年
が更にまた新しい出発となるように、
確かりと準備委員会を作り、前奏を
確かに奏でて行きましよう。

「千代田の未来を語る会」の発足
大内山の松の翠を常々窓外に見つ
つ、朗々と吟じ、常に新しさを求め、
躍進を希って来た私達、廿年の歳月
は、五十代で入会した人も八十近く
になりました。吟力の向上に、組織の
拡大に、吟楽の催事に尽くしました。
この世の為、人の為に良い事をどう
広め伸ばすか。今や「千代田の未来
を語る会」が発足する秋です。老年
紳士の会と云われた千代田にも星霜
は巡って、女性の美しい吟声が響き
出し、還暦前後のバリトン、テナー
調の魅力ある吟声が鳴りだしました。
未来を語ろう。明日の吟を夢見、今
年もより高くより多く、より楽しく、
を目標して健康に過ごしましよう。



吟を学び、披露し、楽しむ温習会

都のど真中一番町で開催



昨年好評であった深川江戸資料館が、抽選で手配出来ず今年も事業部が苦勞した結果、林龍吾神田教場長のお世話で皇居にも近い「いきいきプラザ一番町」で例年より一寸早い十月廿三日開催となった。

来賓に、千代田と関わり深い和田精栄副幹事長、昨年に続き前澤龍淳婦人部長のお二方をお迎えする。

今年は、無伝・初伝者の独吟コンクールを柱に、吟剣詩舞コンクール入賞者の凱旋吟詠、教場毎企画吟詠が関心を呼んだ。注目の独吟コンクールは後記の方々が入賞され、大拍手のなか飯田会長より表彰された。教場毎企画吟詠は、各教場案を練り、扮装にも趣向を凝らせて華やかに繰り広げられた。

「諸行無常」

「小楠公」

「悲運の名将義経」

「石川啄木」

「水戸黄門旅に行く」

「秋」

「戊辰戦争悲話『ああ鶴ヶ城』」

「祝い歌二題」

凱旋吟詠は十五名が登壇したが、東日本大会まで進出、入賞された林

龍吾教場長、金子千枝子さん（東陽町）のお二方の存在感のある吟に感銘が深かった。

恒例となったコンダクター合奏は廿三名が「春望」杜甫作で上達振りを披露。これも感嘆の声。

来賓のご挨拶、いつも心の洗われるような前澤先生の大槻馨溪作「平泉懷古」、和田副幹事長の豪快な高適作「董大に別かる」を拝聴、磯田龍真副会長、飯田会長の吟詠があり最後は大合吟「富士山」石川丈山作で締め括った。

この会で会員増加運動に協力して、十五名の新会員を紹介された方々に会長より感謝状がおくられた。

終了後の懇親会は1Fのレストラ・ン・びあので開催され、酒よし、料理豪華、吟友楽しの、初秋の一刻を堪能してお開きとなった。

ご来賓の両先生、有難うございました。

コンクール入賞者

無伝の部 一位 飯沼 啓子（神田）

二位 内山 雅彦（神田）

三位 粕川 紘一（神田）

初伝の部 一位 古川 章泉（清水）

二位 宮武 保泉（清水）

三位 山手 遙泉（丸）

楽しく盛上がった千代田温習会
総力結集の成果
神田副教場長 酒井 帆山

平成十六年度の温習会は、旧年十月廿三日「吟友の輪拡げ」「吟力向上」をスローガンに行なわれました。今回は、事業部主導による、三教場担当制の第二年度として、ハザマ、鍊水、神田教場の三教場が担当して行なわれ、三教場温習会プロジェクトの強力な結束のもとに、会員全員の協力を頂いて、無事終了致しました。事を深く感謝申し上げます。

今回の特筆すべき事項としては、まず第一にプログラムの全面的刷新がありました。次に、内容面におきまして、本格的な「独吟コンクール」が行なわれたことです。更に例年の如く、教場毎の企画吟が真に楽しく行なわれ、大いなる満足感を得られたことでした。

打上げの懇親会においても同一の建物内の利便性に加え、準備、進行を担当したメンバーの努力の結果、「料理も美味しく、楽しかった」との感想を頂き喜んでおります。私見ではあります。今回の温習会の実施を通じまして「本当に多才な方々の素晴らしい集団だな」と感じております。この大いなる力を持って、「千代田岳精会」の更なる発展を祈ってやみません。

温習会独吟コンクールに優勝して

清水 古川 章泉

当日、独吟コンクール初伝の部は廿三名の方が、日頃の研鑽の結果を競い合いましたが、図らずも私が優勝の栄に浴して、心から感激しました。今回の吟題「軍城早秋」は私の好きな吟題でしたので、その詩心・詩情を充分に汲取り、発声や抑揚も正確に自信を持って吟じました。幸い会長・諸先生の好評を得て、優勝を勝ち得たことは、この上ない喜びでした。

教場で、吟詠を始めて丁度四年になりましたが、先生方のご指導により、漸く岳精流の漢詩吟詠が一応板につき、折に触れお褒めの言葉を頂きお陰で自信が湧いてきました。また、漢詩の勉強を通じて中学、高校時代来の漢文学に対する興味、関心の幅が広がりました。中国古代の歴史書「史記」「漢書」「後漢書」「三国志」を読み始めて、漸く中国古代歴史の流れを汲み取る事が出来、興味尽きない想いでおります。また歴史舞台の変転と共に、様様な人物像が浮き彫りにされ、栄枯盛衰の間模様がよく理解出来ます。中国文学の中で、漢詩の占める分野が山の裾野の広がりを見せているのが、よく分かります。私も、今回の栄誉を心に銘じ、益

々吟道に精進するよう努力してゆく所存です。今後とも諸先生のご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

温習会コンクールで優勝

神田・新宿分室 飯沼 啓子

温習会独吟コンクール初参加で、この様な成績を頂きました事は、林先生、橋本分室長はじめ諸先輩の皆様のおかげです。ご指導の賜と感謝致しております。本当に有難うございました。

神田教場の皆様はご存知ですが、私はアクセントと音程をよく間違え、その度に林先生のご指導を頂いておりました。当日も、ただ間違え無く吟じられればと、その事のみ願っておりましたので、この様な結果を頂けるとは思いも寄らない事でした。実感が無いと云うのが、正直な気持ちです。

振り返ってみますと、加藤千恵子さんはじめ先輩の方々の勧めで入会し、十年振りに都心へ電車を通うところからのスタートでした。昇伝審査、全国吟道大会、婦人部研修、温習会等短期間にいろいろな経験をさせて頂きました。しっかり、じっくり練習を積み、良い吟を身につけられればと思っております。

独吟コンクールに出場して

丸の内第一 橋本 静江

温習会が盛大に開かれ、その仲間に入れて頂き緊張の一日が始まりました。まして独吟コンクール（無伝の部）に出場することになり、年齢を重ねていても、決して良い緊張ではありませんでした。

「軍城早秋」を吟じました。日頃の七十%を出せれば良いであろうと思っていました。練習の度に注意されていた箇所が急に頭の中で混乱し、上手く吟じられませんでした。教場長をはじめ鈴木重風先生、教場の皆さんが自分のことのようにお力添え下さいましたのに申し訳なく思っています。

温習会はお祭りだと云われていますが、皆さん熱心なのに驚きました。一つの事を自分の身の丈になるまですることは大変な事と、つくづく考えさせられ、日頃の練習不足を反省しました。これから一日一日少しづつでも進歩上達する事を願っています。

懇親会は和気藹々、楽しい一時でしたが、その最中越地震が起きていたのも知らず会は盛り上がり過ぎていました。朝の張りつめた気分はどこへやら良い気分が家に帰り、びっくりました。震災に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

平成十六年度昇伝・師範・準師範
昇格お目出度うございます
皆伝 大熊 龍清 (丸一)

奥伝師範 岩崎 龍慶 (丸二)
吉川 龍鍾 (丸二)
林 龍吾 (神田二)

奥伝 太田 翠風 (丸二)
花山 桜風 (東陽町)
福島 起風 (神田女)

奥伝 穴倉 虹風 (丸一)
稲垣 藤風 (丸二)
稲井 碩風 (丸二)
田中 香風 (丸二)
耳塚 昇風 (東陽町)
太田 晴風 (東陽町)
細井 雄風 (東陽町)
村上 恒風 (清水)
菅原 克風 (錬水)

中伝準師範 福田 伶山 (丸一)
渋谷 辰山 (東陽町)
前田 道山 (東陽町)
青木 隆山 (東陽町)
青木 洋山 (東陽町)
城戸 稲山 (ハザマ)

皆伝審査を終えて
丸の内第一教場長 大熊 龍清

十一月三日、川崎市のサンワーク
かながわの皆伝昇伝審査に、緊張し
て出席、横山精真宗嗣の審査を無事
受けてまいりました。
思えば、千代田教場として初めて

昭和六十三年に本部で昇伝審査を受
けて以来、これまで幾度も審査を重
ね、早いもので十七年が経ちました。
多くの吟友の方達と会の発展を願
うての今日までの日々が走馬灯のよ
うに懐かしく想い出されます。
私の吟詠生活は、昭和六十一年の会
発足年度に、職場内で飯田現会長よ
り思いがけず声を掛けられたのが入
会の動機でした。当時、仕事に追わ
れた生活のなかで、週一回大声を出
すことが気分転換となり、明日への
活力とやる気が起き、人生への潤い
をもたらしにくれた事に、飯田会長
始め吟友諸兄に感謝しているところ
です。
吟詠は入り易さの反面、何年経っ
ても考えたり、悩んだり、納得した
りの日々努力の連続で、その奥深さ
をしみじみと感じています。世は将
に長寿社会に入っていますが、一人
でも多くの吟友を増やしながら漢詩
短歌、俳句、新体詩等を声高らかに
吟じて、心豊かな楽しく充実した人
生を送れるものとして、詩吟の良さ
があると考えております。

趣味の世界を楽しむ

丸の内第二副教場長 吉川 龍鐘

皆伝審査を終え、振り返って見る
と吟との出会いから何時の間にか甘
く近く経ち、我ながら良く続いたと

つくづく感じております。これも偏
えに良き師、良き友に恵まれたお陰
と感謝しております。寄稿要請を受
け、色々迷った末、私の趣味の変
遷について披露させて頂きます。
戦時中の旧制中学時代は「切手蒐
集」に熱中しましたが、学徒動員と
共に消滅。戦後の大学時代は逸早く
「社交ダンス」にのめり込み、一年
間位は毎夜狂ったようにレッスン場
通いを続けました。次に「写真」に
凝り、戦後国産初のカメラ、小西六
社の「パール」を手に有頂天になっ
たのを憶えています。その頃友達か
ら「麻雀」を教わり連日連夜遊び呆
けたものです。

会社入社数年後、折りからのモー
タリゼーションを先取りし（実用の
分野に入りますが）運転免許を取得
し「マツダキャロル」を乗り回し、
得意になっておりました。会社生活
中頃同僚から「ゴルフ」の手解きを
受け、病み付きになり週末は専ら練
習場と、時折のラウンドを楽しんだ
ものです。

子会社に出向二年余りの頃、磯田
副会長から「詩吟」への誘いと「漢
詩辞典」を頂いたのが切っ掛けとな
り入会、今日に至っております。
流山に住んだ後、近所の畑を借り
「家庭菜園」を始め結構楽しんでい
ます。退職後地域活動の中から「グ
ランドゴルフ」が生まれ、数年前か

ら没入しており、その頃からコースの「ゴルフ」は疎遠となりました。麻雀の方もすっかり縁が切れ、代って地縁で「陶芸」が生まれ、又「社交ダンス」も最近復活しています。何れにしる高齢者になった今でも続けられるのは、無理なく、楽しく加えて同好の仲間との触れ合いがあるからで、その上何より費用があまり掛らない点にあると思います。今後とも体力の続く限り、自分なりの趣味の世界を楽しんで行きたいと思っています。

平成十六年奥伝師範を受験

神田 福島 起風

一、二か月前に、貴方は受験該当者といわれ、どう取組んだら良いのか。昇伝審査指定吟題のなかから出題されると聞いたが、教場では、一通り指定吟題の勉強をしたものの、特別にしぼり込むことはしなかった。十一月三日、当日の試験問題では、詩文にアクセントと吟譜を書き入れるものが出ると期待したが、実際には出題されなかった。その代わり詩文の大意を書く問題が出た。そこで少し戸惑ってしまった。また試験が終わって後で気付いた点が二つある。一瞬、度忘れした漢字を中々思い出せず、誤字を書いたケース。もう一つは意味のとり違いの

危険だった。今この二点につき反省している。

受験と云うのは、学生時代を思い出すが、高齢となって、記憶力を強める良い方法に、どんな事があるかと自問自答しているが、やはり「継続は力なり」と云われているとおり、日常、前向きに好奇心をもって吟に取組まないと駄目と改めて痛感した。

この道一筋

清水教場長 村上 恒風

昭和十年代、旧制中学の頃、漢文の恩師、荒井瑞穂先生が授業時間中番外で詠って下さった詩吟の声が長い間耳について離れず、社会に出てからも折に触れ口ずさんでは一人悦に入っていた。

平成五年、会社を辞めた後、中学時代の友人、林龍吾氏の紹介を受けこの道に入り、昨秋、奥伝の受審時期に達した。喜びの一方では、今迄以上に肩の荷が加わった感も禁じ得ない。

顧みて、この十余年間、心身共に充実して過ごすことができ、寄る年波も忘れる程だった。入会当初は丸の内教場に所属、飯田会長に師事、基本をしっかりと伝授された。その内に東陽町教場にも顔を出し、併せて磯田副会長のご指導を受けた。回を重ねる毎、吟とその周辺の魅力に取

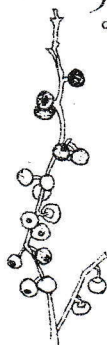
りつかれ、吟友の方々と昼夜を分かたず、吟楽道中に明け暮れた日々を、今懐かしく思い起こす。又、市井の泰斗、故小川雅一郎先生にも師事、漢詩の鑑賞について、測り知れぬ程多くの事を学ばせていただいた。

平成八年、出身会社清水建設時代の旧友、大槻二郎氏と相談、会社OBの方々の賛同を得て、教場を開設。飯田・磯田両先生の下、延三三〇回の教室を開き、現在に至っている。最近では、若い層や出身会社以外の方々の入会もあり、より豊かな人間模様が続り広げられており、意気盛んである。

これから、この道一筋に生きてゆきたいと思う。

奥伝に挑戦

丸の内第一 稲垣 藤風



天高く蔦が色づき、濃緑の椿の葉など我家の狭い庭を眺めながら、しみじみと健康の恵みを有難く思う季節。その晩秋の午後、川崎の会場で奥伝を受審しました。宗嗣の面前での吟詠は年甲斐もなく、声そして体共に震えてしまい緊張の時間でした。後日、どうにかパスしたとの伝言を頂き、やっと半人前になったと胸をなでおろしました。

平成五年三月に入会、当時は丸の内本社七階の重厚な講堂で飯田会長

の直々のご指導で、楽しい練習の日々を過ごしていました。あれから十一年、会員も増え、入会時には思ってもいない二百名体制も目前となり、教場も八教場、千代田岳精会となり、ました。その中で女性の最高齢の私、その私に一体何が出来るのかしらと思う日々、吟の真髄に触れ得た喜びを最後の生活の盾となれば幸せと思ひ、昨今は周囲の老友に吟を勧めています。健康が続く限り、今以上に吟詠を楽しく励む所存です。宜しくお願ひします。

枯葉とは

云われぬ自適

余生かな

八十二姥



奥伝審査会に出席して
東陽町副教場長 太田 晴風

十一月三日奥伝実技審査を受ける。生来の音痴で、音程なるものに嫌悪と恐怖すら感じてきた私が初伝・中伝そして奥伝と厳しい階段を登らせて頂けたことは感慨無量としか申せません。既に会場には大勢の受審者が溢れ、皆自信に満ちているように見え、ました。実技審査番号廿三番、第二教室と書かれた札を受け順番を待つ。五人一組で入室、一段と緊張がはしる。審査は宗嗣先生。日頃の穏やかな

顔が今日とはとても厳しく見えました。「武野の晴月」を指定され、吟譜に目をやる、声がうわづっているのが分かった。完全に吟を暗誦していかかった事に後悔の念が走った。吟出しの弱さ、さぐり吟の悪い癖が出てしまった。僅か二分の筈なのにその長かったこと、ボロボロの心境でやり直しを命じられ、無我夢中で吟じる。再度吟じ終えた時、宗嗣先生は「一口先で吟じようとせず、渾身の力で吟ずるように」今更ながら強く反省させられた一日でした。

現在の心境

丸の内第二 田中 香風

十八年前、職場の友人に誘われ、した。私は詩吟の盛んな熊本生まれで、歌が大好きでしたのでしばらく勉強してみ事にしました。先生は飯田会長でした。二年後、仕事の都合で中断、平成六年八月六日、私の還暦の日に支部昇格記念大会に招待され大変感動して再度入会。その後、夫が肺癌で急逝、生きる目標を見失っていましたが、打込める詩吟が支えとなりました。お陰さまで奥伝受審まで続けられ、飯田会長始め磯田副会長・岩崎教場長、諸先輩に深く感謝しております。私は審査の時も、コンクールの時も緊張して、いつもの調子でなく、

念な思いをします。今回の審査でも「裏声のところがあった、もう少し突っ込みを持たなければ」との講評。いつも準備不足で後悔しています。昨年古希を迎えましたが、挑戦する意欲を持つことが大切と思い「詩歌研修会」「演奏研修会」に積極的に参加しています。九月の中国旅行では、かねての念願が叶い亡兄が戦中まで住んでいた大連・旅順を訪問し、その地に桜の植樹も出来て大変嬉しく夢のようです。これも詩吟のお陰です。宗家の信条を多くの人と共有出来るよう頑張ります。

意ありや

東陽町 前田 道山

開口一番「どんな動機で受験しましたか」順番が巡り、当り前のこととして申込み、坦々として筆記試験を終えて臨んだ午後の面接。石井精禎先生の鋭く核心を衝く質問があった。この先制に頭真白になったものの、一息置いて日頃の存念を卒直にお答えする事にした。共欲のこと、共栄のこと。特に詩歌研修会については種々ご下問があり、運営上のアドバイスを頂戴する事が出来た。この面接こそが私に立場を認識させ、心を固めさせた大切な刻となつた。当日会長、副会長を始めとする

心強い励ましを戴いたことに深謝申し上げると共に、応えて発展の一翼を担いたく思う。

準師範試験を受けて

東陽町 渋谷 辰山

実に何十年振りかの筆記試験であったが、会場には顔見知りの吟友が多く、又東陽町の同期が数人一緒だった事もあり緊張することもなく臨む事ができた。試験問題については、予め会長、副会長からご指導を頂いていたので答案は一間を除いては思い通りに書けたと思う。

問題の一つとは「詩文に吟譜を書き入れる問題」に「貧交行」が出題され、山が外れた事。仕方がないので記憶の底にある節調を何回も繰り返し口ずさんでは吟譜を書いたり消したりの大苦戦。おかげで持時間の大半をこれに費やして仕上げたが、結果はどうだったか。

面接は本部の石井精植先生で、まず「受験の動機は」と聞かれて一瞬返答につまった。今迄の昇伝試験の延長だからという軽い気持ちでの受験態度を衝かれた思いであった。筆記の最終問題「準師範を取得したとして、その心構えと抱負を述べよ」に一通り考えは記したが、それを単なる答案に終らせることなく、実行に移すべく努力する必要がある

と反省させられた。冷や汗の面接であつた。

こういう刺激も偶にはあつても良からうと感じた次第である。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

漢詩 (三)

「汪倫に贈る」誕生物語

ハザマ 前田 辰泉

時は今から数えて千二百五十年前、所は中国安徽省涇県の市街地から涇川に沿って西南へ約四十キロ、景勝地桃花潭の近くに鄙びた村がありました。

この村で、素封家として知られる汪家、当時の主人は倫さんであります。倫さんは酒造研究家として知られ、その酒は天下一との評判を得ております。一方彼は、文学にも造詣が深く、一家の主となり、財を成した今では文壇の名士達との交流を生きた甲斐としております。

ある日、彼は高名な李太白先生に一週間の招待状を送ります。「おかげさまで、今年の新酒も極上の出来でございます。一献差し上げたいと存じます。ご多忙とは存じますが、ご来駕を心よりお待ちしております。当時、李白は長安の宮廷を逐われ、はや十年、浪々の生活でしたが、引く手あまた、多忙の日々でありま

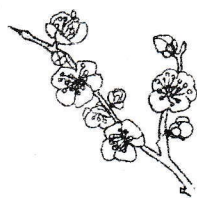
す。根っからの飲ん兵衛の李白先生詰まった日程をやりくりいたしまして、某日汪倫宅を訪れました。高名な李白を迎えて、村では挙げての大歓迎、数日間の大宴会が続きました。

その後、名残り惜しみつつ汪倫邸を辞した李白は船着き場から、涇川に漕ぎ出して帰路につきました。船が進みますと、やがて視界が開け、桃花潭の岸辺の広場に、満開の桃花を背景に、楽隊が賑やかに合奏、更に十数人が腕を組み、足を踏み鳴らして踊っております。その中心で両腕を高く挙げて、こちらに合図しておりますのは、紛れもなく汪倫氏であります。

立ち上がった李白も両手を高く挙げて振り、一団の姿が小さく消えるまで別れを惜しんだのでした。その後、船端で暫く想いを凝らしていた李白は、やがて矢立と懐紙を取り出し、墨痕鮮やかに一詩を記しました。

贈汪倫 李白

李白乗船將欲行
忽聞岸上踏歌聲
桃花潭水深千尺
不及汪倫送我情



李白が船を降りるとき、船頭に託されたこの詩は、その後永く汪家累代の家宝となりました。

年男。年女



今年の干支は乙酉（きのととり）です。酉年の方は全員還暦以上のお年でしたが、味わいと若さすら感じさせるメッセージを寄せられました。

酉年回顧

東陽町 萩

裕山

一、昭和八年二月六日中国山東省青島で出生するも、幼児期に福岡県久留米市に帰郷し出生地の思い出が無く、一度は訪れたかったが未だ望みを果たせずー残念！

二、昭和廿年四月、旧制福岡県立中学明善校に入学したが、三か月後に軍国少年最大の目標「陸軍幼年学校」進学は夢霧散。二学期から新科目英語や社会科学等でデモクラシーとは：に面食らう。

三、昭和三十二年名城大学第二商学部を六年掛りで卒業、大学院商学科に進学。三十四年修士課程終了、十月十一日に結婚。現在老妻と共に平凡に生活中。二男一女を授かるも、未だ孫なしは残念。

四、昭和四十四年次男（末子）誕生

今年三十六歳で小生の半に。
五、平成五年二月廿七歳で入社明治生命を勤続三十三年で定年退職。
七月友人の誘いで岳精会入会。

十月十六日郷里で母八十三歳で没。鎌ヶ谷市国際交流協会に入会ボランティア活動を開始。継続中。
六、今年は『奥伝』受審の年。亡母が『奥伝 萩 静風：岳風流』だった。『奥伝 萩 裕風』の認許に向けて一層精進を！
ボランティア活動を継続し、地域に、より密着して仲間を増やしたい。

私の吟道十年目

東陽町 青木 隆山

兎にも角にも今年は吟道十年目になりました。

宗家はじめご指導頂いた各先生方及び吟友先輩諸氏と、私に吟への誘いを下さった穴倉虹風さんに心からお礼申し上げます。振り返りますと、平成七年十一月廿二日に東陽町教場で私と詩吟は初対面でした。

その頃私は職場が年末商戦を前に多忙な時期であり、また以前に患った顔面神経麻痺で、口元にゆがみが残っており、本当に口を大きく広げ声が出せるものかと不安と戸惑いはありました。今は諦めず続けて、今日あることに感謝しながら、詩吟の楽しさと心の安らぎを与えてくれます。この実感を自分達だけのものとせず、一人でも多くの人に伝えたいと強く考えております。
酉年の今年は吟道の奥深さと難か

しさを、しっかり認識して「詩吟は余韻の芸術である」といわれる点にトライし、詩情の表現をより豊かにする事を抱負とします。

八十四歳の想い

ハザマ 長谷川 藍山

年齢に些かのこだわりがあります。が、暦については殆ど関心が無いので自分の現在の想いをメモ致しました。

平成十二年の老人検診で胃の異変を発見、登戸病院で二回に分け内視鏡手術、何の苦もなく順調に終了しました。最後の三週間検診の二日前に下腹部に不快を感じ、出血がありましたので、当日早めに病院で担当医に経緯を説明し腸の検査に変更しましたら、結腸から直腸へ行く管に癌があり、早速入院して手術を始めました。が内視鏡では難しく、後日外科手術となりました。矢張り八十過ぎの開腹は癒りが遅いと言われる様に長い期間が必要で、
以来、人間の体の部分それぞれが独自の働きを力強く、しかし微妙に一生懸命に調和の採れた方向に試行錯誤するのを感じました。三年半ばかり最近やっと落着いてきました。
昨年初、腰痛、股関節が痛み歩行と直立するのが困難になり、近くの整形外科に通い薬療法、点滴療法、

電気療法そして新聞で見た食餌療法をして居りますが、この方は活路が見えません。
平成五年に故人となった家内の七回忌迄の活力が、十三回忌を迎える今年は大分弱まったのではないかと反省する昨今です。

私の歩んだ道

東陽町 植村 太泉

昭和八年十二月十四日、加賀百万石金沢に生まれ、十五年尋常高等小学校入学。十六年太平洋戦争開戦国民学校に名称が変わる。廿年終戦に至までの五年間戦争と歩んだ少年時代。幸いにして戦災を免れた唯一の大都市です。

廿一年新教育体制六・三・三制となり高等科一年で中学二年に編入。廿四年新制高校に入学、廿七年卒業と学校時代が終り、十八歳の春上京、社会人として第一歩を踏み出す。

上野駅に到着、錦糸町で都電に乗替え江東区扇島でこれから先数十年の生活が始まる。終戦後七年目の東京は、まだ戦災の傷跡が残り錦糸町の駅は木造平屋で駅前にはバラックの建物に飲食屋、食堂、衣料品店等が軒を並べ、娯楽は映画、歌謡ショウが全盛期で劇場はどこも満員の盛況でした。

さて、私の勤務先東京製粉ですが、

従業員百人位の中小企業で、作業内容が小麦粉をパッカーと云う機械で袋詰に、藪を俵詰に、殆ど手作業です。交替勤務で昼夜兼行、三十数年この作業に従事しました。
現在は、自動工場、自動倉庫に変わっています。後半の十数年は倉庫係として製品の運搬作業と製造部門一筋に働いて来ました。平成六年、六十歳定年で四十二年パートで五年、サラリーマンに終止符。
十年、荻さんの誘いで詩吟を始め、七年が過ぎました。今年、年男、節目の年、コンダクターに挑戦。
同年生まれの荻さんと鎌ヶ谷教場実現に向け頑張ります。応援宜しくお願い致します。

趣味

ハザマ 仙田 土泉

還暦から十二年、私達が十二歳の頃は終戦。私は空きっ腹を抱えて神田のヤミ市でラジオのパーツを買っては組立てるラジオ少年。スイッチを入れてスピーカーから音が出た時のときめきは、今でも忘れられない。それから野球少年、天気が良いれば野球、悪ければ池袋で映画。
学生時代が終りハザマでは、現場でモノ造りにのめり込み（のめり込まされた？）一定年近くなってから地元小学校OB会でソフトボール、サ

ラリーマンが終ったら地元町の町会でダンスと社交会の先輩に勧められて詩吟。ダンスは五年目に入ったが熱が入らず、あとは詩吟のみか？今年、ボチボチ羽ばたかないと、お世話になってる人達に申し訳ない。

還暦を迎えるにあたり

鍊水 越村 梢泉

昭和廿年九月生まれで、平成十七年停年を迎える。今迄を振り返って可もなく不可ばかりの会社人生であったと思います。会社人として仕事の他は、毎夜の酒と週一回の麻雀だけでしたが、六年前菅原教場長（当時井手教場長）に詩吟の会にお誘いをいただきました。詩吟が唯一の趣味になりました。惜しむらくは九月で山梨の田舎に引込み百姓を手伝い乍ら生活して行こうと思っております。

詩吟は今まで教えて頂いた「真善美」を守り一人で研鑽に励むつもりです。晴耕雨吟。一寸良いでしよ？短い間でしたが、皆々様にご指導賜り厚くお礼申し上げます。

健康に感謝

丸の内第二 高松 泰子

いつの間にか年齢を重ねました。気持ちはずっと若いですが、身体は重しという昨今になりました。健康に

健康にともう一つ楽しんでるのが手話ダンスです。これは指を使いリズムに合わせてステップを踏んでの踊りでとても快適なものです。

流行の「世界に一つだけの花」とか「大きな古時計」とかの歌に合わせ、て手話で表現するもので、マスターする迄仲々苦勞しますが楽しくやっています。これからも自分の人生、健康に責任を持ちつつ挑戦の日々でありたいとの思いを新たにしております。

東陽町 金子 千枝子

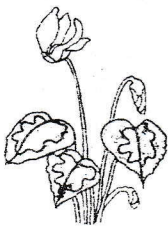
頃です。昨年は東日本大会で入賞させて頂きました。今年も鶴にお願い致します。吟と舞いは私の人生の全てです。そして素晴らしい先生お仲間にも恵まれてお稽古の日が、楽しみです。まずは健康に気を付けて吟に向かつて行け行けバタバタと一寸弱った羽根で風を切つて……。

先生はじめ皆さま、今年もご指導を宜しくお願い申し上げます。

神田教場・新宿分室開設

神田教場に新宿分室（橋本淳泉分室長）が十一月二日付で開設された。教室は、明治安田生命新宿ビルB1階の会議室。毎週火曜日十二時より会員七名が酒井神田副教場長の支援を得た橋本分室長の指導でレッスンが始まっている。別称カトレア会は若さ溢れる雰囲気、今後が大いに楽しみ。丸の内女子教場、草加分室に続き期待の女性リーダーの登場となった。

新任副教場長



次の二教場で副教場長が新しく任
名されました。(十一月一日付)
東陽町 花山 桜風
錬水 岩本 行泉

諸コンクールの日程

◎吟剣詩舞連盟吟詠コンクール
今回はこれまで最大の五十二名の
出吟申込みがありました。

◆品川区連
三月五日（土）

◇大田区連 三月十九日（土）

◆港区連 三月廿日（日）

◎岳精流独吟コンクール
◇三月十九日(土)

会場 サンワークかながわ

次の六名の方が出吟されます。

林 龍吾、池田康山、橋本淳泉、

加藤千恵子（神田）徳本順泉

(清水) 金子千枝子 (東陽町)

出場の皆さんのご健吟を期待いたします。

平成十七年度昇伝審査指定吟題

(一部再掲)

初伝 佳賓好主

偶作

中伝 中秋の月

山房の夜雨

短歌
ゆく秋の

やわらかに

奥伝

龍
虎

俳句 あめつちの

夏草や芭

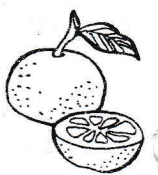
元二の安西に使いするを
送る王

送る
青山の歌

青山の歌

賴王
山陽維

本部女子大健闘！堂々の四位



十一月十四日、日本武道館で開催の全国吟剣詩舞道大会に出場の本部女子チームに菅原琴風丸の内女子教場長を始め十一名が参加した。

吟題は「山中問答」李白作。三十回の優勝チームからメンバーを一新、渡精華副幹事長・前澤龍淳婦人部長の厳しい指導が五月から続けられた。当日は、全員の気持が揃い、これまで最高の見事な出来で上位入賞が期待されたが、惜しくも四位とあと一步の所でメダルには届かなかったが、大健闘であった。

岳精流では、砂子女子が十六位に入賞した。

武道館吟剣詩舞道合吟コンクールに参加して

丸の内女子 山手 遙泉

岳精流本部女子チーム五十五名のうち、千代田から十一名が参加しての他流試合で、第四位入賞を果たし、ご指導頂いた諸先生、並びにご声援を賜りました宗家・宗嗣先生を始め皆様に、初出場の一人として厚く感謝申し上げます。

入会から四年目で、この様な大規模なコンクールと武道館という会場

に、当初は圧倒されそうでしたが、昨年五月から渡精華先生、前澤龍淳先生のご指導で「山中問答」を練習回を重ねる毎に、次第に全員心身共に気合いが入って参りました。しかし乍ら、中々先生のご注意される点が直らず気ばかりが焦り、毎回大汗をかく始末でしたが、今振り返って見ますと、貴重な勉強を体験させて戴き感謝の気持で一杯です。

これから、このコンクール出場の感動を糧にして、今年は「更に上る一層の楼」に挑戦して参りたいと存じます。

○その他の出場者 樋沢桃山（鍊水）池田康山、村井蓉山、橋本淳泉、渡邊正泉、加藤千恵子、山崎洋子、（神田）本多敦子、板橋和子（丸女）

第五次日中友好吟行旅行 訪中団に参加して

丸の内第二 本多 弘山

九月十三日、私達訪中団百三十五名は成田空港に集い結団式が行われ、宗家から今回の訪中に当って「日中の友好と世界平和を願うと共に旅の安全を」とのご挨拶を頂き、定刻通り全日空便にて二時間余の快適な空

の旅で大連空港に到着しました。空港から四台の観光バスに分乗して大連市内に向かいましたが、私達千代田組八名は二号車で、本部から宗嗣と大矢先生が同乗され、以後親しく細やかなご指導をいただき、楽しい旅が始まりました。

市内へ近づくと、郊外とは全く違った風景となり、高層ビルが建並び、市電が通り多数のタクシーが走り、活気が感じられました。私達が宿泊する大連ラマダホテルは大連駅の目の前で市の中心部にあり、驚いた事に駅は正面から見ると上野駅と全く同じ形状で懐かしさと親しみを感じました。暫く休憩して初めての夕食会では中国料理を堪能いたしました。

二日目は市内観光と老虎灘、中山公園そして経済開発区へ、広大な地域に工業団地が並び、その内七割がソニーを始め日本企業が進出しており、日中の交流を痛感しました。

三日目は旅順観光へ、東鶏冠山、水師営会見跡、二〇三高地へ、そして宗家、宗嗣による桜の記念植樹が行なわれ、あらためて世界平和を願う思いでした。最後に同行した愚妻の五行歌を

朽ちかけた旧日本人街
近代的な高層ビル
貧しい農村風景
爾靈山（二〇三高地）立って
今の平和をかみしめる

秋の吟行会武蔵野を歩く

吟楽部主催の、秋の吟行会は十一月廿八日、東武「志木駅」に六十名が集合。ぬけるような青空の下、武蔵野の大刹臨濟宗平林寺まで、野火止め用水沿いに5・5キロを元気に歩いた。東京ドーム十数倍の広い境内は名残りの紅葉を愛でる人で一杯。まずは飯田会長の先導で奥庭で全員合吟の後、昼食会場の「一源」へ。潤沢な料理と酒に一同大満足で、飲みかつ吟じたが、中でも参加の武道館四位入賞メンバーのご披露に拍手が止まなかった。準備万端、周到な世話役の皆さんご苦労さまでした。

『新会員紹介』

◇清水教場

竹内 郁郎氏（八月入会）

昔、仙台の陸軍幼年学校で大槻鉾山副教場長と同じ釜の飯を食った縁で入会されました。戦後は東大で、現在も猶私大の教職にあり、多忙を極めておられます。今一番自慢出来るものは素人離れした歌唱力であり、遠からずお耳に入れる事になると思います。

佐藤 忠氏（八月入会）

竹内氏と全く同じ大槻副教場長と同じ釜のご縁で、同時に入会されました。昔の軍隊教育がそのままだって、声も大きく節調もよく、



教場の第一声で先輩達を圧倒した感じ。「追越し禁止」の囁きも通用しない事でしよう。

山田 晴彦氏（九月入会）

昭和十一年東京生まれの東京育ち。戦時中愛知県に疎開し田舎の生活も体験、趣味は旅行とグルメ探訪。邦楽全般に強い関心の持主。歴史と地理に造詣深く、漢詩の世界に興味を持ち入会。また夜の銀座に詳しい一面がある期待の新人。大木 栄一氏（十一月入会）

大槻副教場長の現役時代からの交友が実を結び、ひよんな事から詩吟を始めることに。あっさりと入会され、初回の会長授業で自ら挙手をして堂々独吟されました。その心臓の逞しさ、積極性には旧友も瞳目した次第。人間、歳には関係ありません。

林 文代さん（十一月入会）

私の入会の動機は、誘って下さった加藤さんが、詩吟に無関心な私に、折につけ声をかけ少しずつ實際を見学させながら興味を持たせてくれ、大きな声を出せるからストレス発散と美容効果があるかなと思うようになり、橋本分室長についていてみようと思ひました。

吉田 昭子さん（十一月入会）
橋本淳泉さんに熱心に誘われ、

六十路の手習いにと片道二時間余をかけて通う覚悟を決め、無理せず、あせらず、諦めずを心がけたいと思っています。尊敬できる分室長、個性豊かな先輩方との出会いを大切に年齢とともに失われてゆく謙虚さを養いたいと存じます。カトレアのごとく、美しく、しなやかに。

◇ハザマ教場
林 森一氏（九月入会）

七十歳まで現役で仕事につかれその後は、お孫さんとパソコンを楽しもうと、パソコン教室に通い続けておられるとのこと。往年、小唄を嗜まれた経験から、発声法には強い関心をお持ちです。この熱心さで吟の道も極めようと、意欲満々です。

◆村松 長治氏（ハザマ教場）

五月三十一日ご逝去されました。享年七十六歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記



沢山の高段昇伝の方々、分室の発足。新年の息吹きを感じます。昨年、数度の大災害、自然への敬意と畏れを忘れた人間への警告と、謙虚に自然との調和を考える年でしょうか。（八田）